

新・生物多様性国家戦略の構成

前文	<p>【経緯・計画の役割】</p> <p>■見直しの経緯 ■前回戦略のレビュー ■新戦略の性格・役割</p>
第1部 生物多様性の現状	<p>【問題意識】 生物多様性の3つの危機</p> <p>■第1の危機 人間活動に伴うインパクト</p> <p>■第2の危機 人間活動の縮小に伴うインパクト</p> <p>■第3の危機 移入種等によるインパクト</p> <p>【現状分析】</p> <p>■社会経済状況 社会経済動向 国民意識の変化</p> <p>■生物多様性の現状 世界・日本の概況 種・生態系の現状</p> <p>■保護制度の現状 国土利用計画体系 環境省の保護施策</p>
第2部 理念と目標	<p>【理念と目標】</p> <p>■5つの理念 ①人間生存の基盤 ②世代を超えた安全性、効率性の基礎 ③有用性の源泉 ④豊かな文化の根源 ⑤予防的順応的態度（エコシステムアプローチ）</p> <p>■3つの目標 ①種・生態系の保全 ②絶滅の防止と回復 ③持続可能な利用</p> <p>■生物多様性のグランドデザイン ・国土のマクロな認識 ・国土のあるべきイメージ</p>
第3部 生物多様性保全及び 持続可能な利用	<p>【対応の基本方針】</p> <p>■3つの方向 ①保全の強化 ②自然再生 ③持続可能な利用</p> <p>■基本的視点 ①科学的認識 ②統合的アプローチ ③知識の共有・参加 ④連携・共同 ⑤国際的認識</p> <p>■生物多様性からみた国土の捉え方 ①国土の構造的把握 ②植生自然度別の配慮事項</p> <p>【個別方針】</p> <p>■主要テーマ別取扱い方針</p> <p>①重要地域の保全と生態的ネットワーク形成</p> <p>②里地里山の保全と持続可能な利用</p> <p>③湿原・干潟等湿地の保全</p> <p>④自然の再生・修復</p> <p>⑤野生生物の保護管理 ・種の絶滅の回避 ・移入種問題への対応</p> <p>⑥自然環境データの整備</p> <p>⑦効果的な保全手法等 ・環境アセスメントの充実 ・国際的取組</p>
第4部 具体的施策の展開	<p>【個別施策・各省施策】</p> <p>■国土の空間的特性・土地利用に応じた施策</p> <p>①森林・林業 ②農地・農業 ③都市・公園緑地・道路 ④河川・砂防・海岸 ⑤港湾・海洋 ⑥漁業 ⑦自然環境保全地域・自然公園 ⑧名勝・天然記念物</p> <p>■横断的施策</p> <p>①野生生物の保護管理 ②生物資源の持続可能な利用 ③自然とのふれあい ④動物愛護・管理</p> <p>■基盤的施策</p> <p>①調査研究・情報整備 ②教育・実習・普及啓発・人材育成 ③経済的措置等 ④国際的取組</p>
第5部 戦略の効果的実施	<p>【まとめ】</p> <p>①実行体制と各主体の連携 ②各種計画との連携 ③国家戦略実施状況の点検と国家戦略の見直し</p>

生物多様性国家戦略の見直しに関する経緯について

